

2022年9月28日(水)19時～・再10月2日(日)10時

講演会資料②

主催:(一般社団法人)障がい児成長支援協会

共催:児童発達支援・放課後等デイサービス「AtoZ Academy」

早期からの適切な支援によって 二次障害は防ぐことができる!

◆子どものほめ方叱り方

◆学校との連携のあり方

(一般社団法人)障がい児成長支援協会 協会長

中部学院大学 山内康彦 (学校心理士・ガイダンスカウンセラー)

まず、はじめに・・・ 講師紹介・・・

◎学校一番の問題児が先生（心理士）になった

図 画 工 作	絵をかく 版画を作る	X	X	X
	彫 塑 を作る			
	デザイン をする			
	工 作 をする			
作品の美しさを味わう				
進歩のようす				
家 庭	技能が身についている			
	知識と理解力がある			
	実践力がある			
	進歩のようす			
体 育	運動のしかたを理解して正しくできる	○	○	○
	きまりを守り協力する	X	X	X
	健康安全に注意する			
	進歩のようす			

Ⅱ 教 科 の 評 定

段 学 期	教 科 階	教	国	社	算	理	音	図工	家	体
		科	語	会	数	科	楽	画	庭	育
1	よ い									
	ふ つ う				○		○			
	もう少し	○	○			○		○		○
2	よ い									
	ふ つ う									
	もう少し	○	○	○	○	○	○	○		○
3	よ い									
	ふ つ う									
	もう少し	○	○	○	○	○	○	○		○

気
づ
い
た
こ
と

研究授業のときなど、他の先生が見
に来てみえるときは、大変は叩いて、
しっかり勉強できたのに、善断は注
意散漫です。やればできるだけの力
を拵っていますので、我がままを通
さず、自分勝手な行動がおき
まるようになると思います
(7.19)

授業中、よそみ、手ばかりが多く、忘
れものをしてくると注意されるまで、知
ん顔で何もしないで遊んでいます。
強く叱られれば、何んでもさっさとやる
力を拵っていますので、自分からやる
という氣を拵ってくれるのを待っています
(12.26)

三学期のなか、ときどきですが、落ち着
いて、勉強できるときもありました。
わかんない子で、好きなので、もう少し
自分の我がままをおさえることができん
ば、やむを得ない子です (3.26)

まず、はじめに・・・ 講師紹介・・・

今で言えば、まさに「発達障害」の児童である。
では、なぜ、ここまで私が成長してきたのか？

- 温かさと厳しさを両面もった**家庭**
- 母が美容師**アシスタント**とお客さんに**愛される**
- どんな時にも温かく受け入れてくれた**叔父さん**
- 個別に温かく指導してくれた**学校の先生方**
- 遊びも悪さも悩みも常に共有した**仲間**がいた
- たくさんの**経験**から**得た特技**

(サッカー・手品・ギター・スキー・船舶免許)

※好きなことや得意なことをたくさんつくる！！

今日のお話の内容

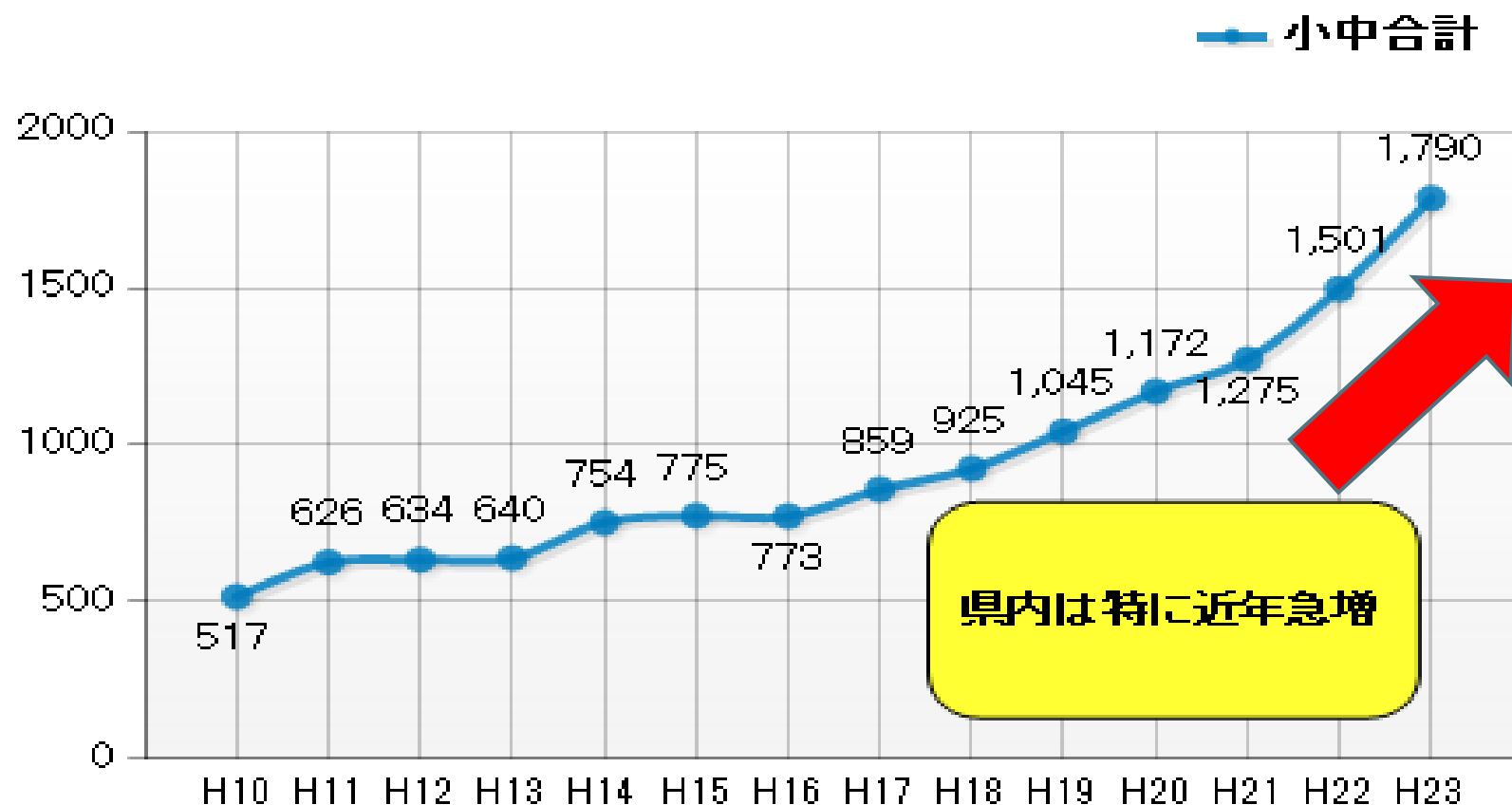
(子どもたちのためになるお土産を少しでも多くご紹介したい。)

- 1 はじめに (特別支援を取り巻く現状)
- 2 親として何を行うと子どもたちは伸びるのか
- 3 学校や各種機関等との連携の在り方
- 4 知らないと損する進路の情報
- 5 放課後等デイサービス等の有効性と選び方

【特に通級在学者は近年急増】

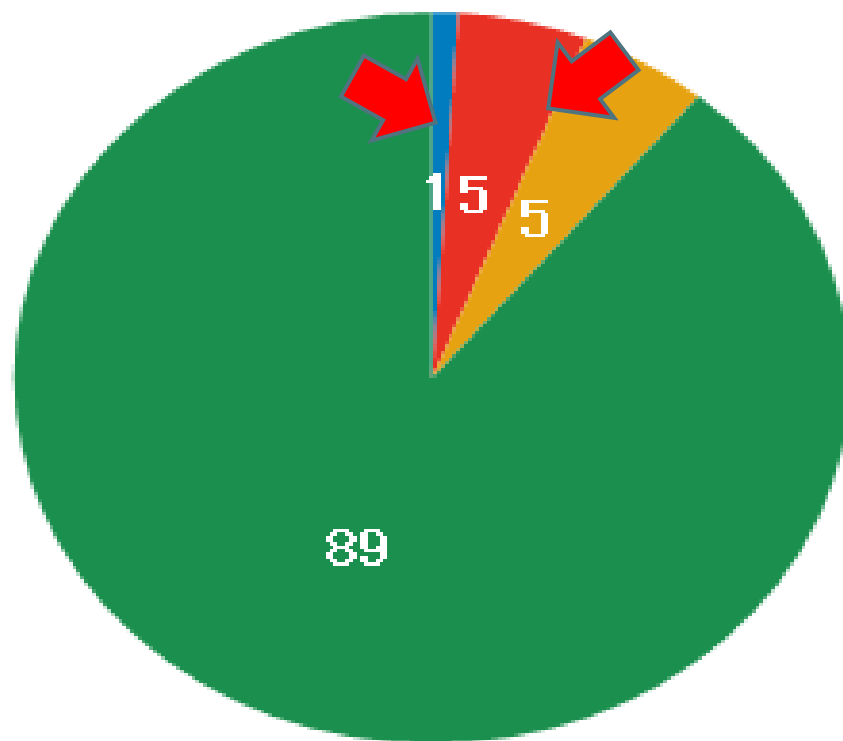
※岐阜県学校基本調査より

通級による指導を受けている 児童生徒数の推移（県内）



【通常の学校内で約6%の対象児】 (可児市も全国同様)

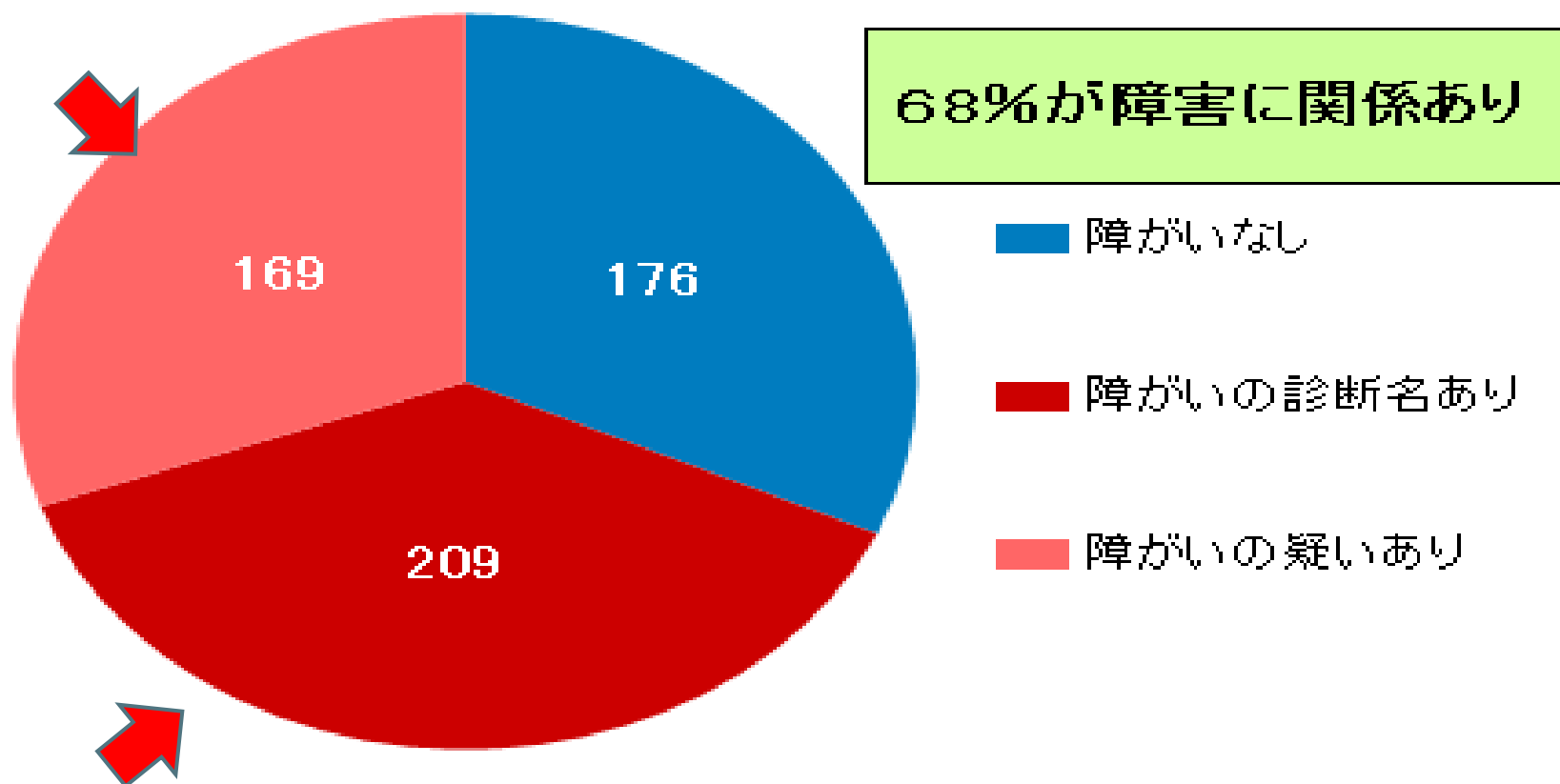
特別支援が必要な児童生徒の割合(%)
(可児市小中学校回収率90% N=7642)



- | | |
|-------------------|----------|
| <u>何かの診断名がある子</u> | 違和感を感じる子 |
| <u>特別な支援が必要な子</u> | 定型発達の子 |

【発達障がいの関連が報告】 （県教育センターから）

H22岐阜県教育センター（学校支援課）
教育相談回数^①の障がいの有無割合
（全554事例）



「困った子」は「困っている子」

「困った子だ！」と嘆いている
のは指導者や保護者の勝手な
視点

☆実は一番困っているのは

その子ども本人

子どもの困り感に寄り添うこと

「心理検査」の活用と「応用行動分析」

本来判定に使うためのものではない

☆K-A B C ・ K-A B C 2

☆田中ビネー

☆W I S C Ⅲ ・ W I S C Ⅳ

☆新版K式

※なぜ顔を上げないのか? →



個の知的特性等を把握し、その高低やバラツキからその子に合った支援を考える材料にするもの

今日のお話の内容

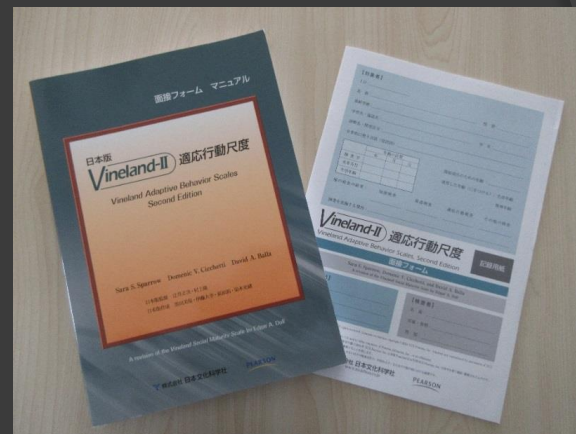
(子どもたちのためになるお土産を少しでも多くご紹介したい。)

- 1 はじめに (特別支援を取り巻く現状)
- 2 親として何を行うと子どもたちは伸びるのか
- 3 学校や各種機関等との連携の在り方
- 4 知らないと損する進路の情報
- 5 放課後等デイサービス等の有効性と選び方

まずは、何を身につけることが重要なのか

S-M社会生活能力検査(129の項目)

- 1 身辺自立
- 2 移動
- 3 作業
- 4 意志交換
- 5 集団参加
- 6 自己統制



就職するために必要なことは……

大山会長（日本理化学工業）の採用条件



- ・ 身辺自立
- ・ 自分で会社に通う
- ・ 「やろう」と言われたら
すすんでやる
- ・ 仲間にいじわるをしない
- ・ 気持ちのよいあいさつ

答えは簡単！！

子どもたちへのかかわり方の大原則

しかるより

ほめること

その理由は

叱られる子は負のスパイラルに陥っている

できない→叱られる→自信がなくなる
→やらない→叱られる→ふてくされる
→怒鳴られる→逃げる（反抗する）
→もっともっと怒鳴られる

◆自己肯定感をなくしていく

「俺はどうせバカだから・・・」

「どうせ 私には できないし・・・」

「はじめから やらない方がいいや」

ほめること・・・ 当たり前で一番大切

そのポイントは以下の3点

☆この順番も大切

- 1 位置づけ
- 2 価値づけ
- 3 方向づけ

今回の講演会では……………付け加えて

子どもを伸ばす親のかかわり方は
発展していく。

1 手をかける

2 目をかける

3 気を配る

※2と3を特に大切にする。

それでは……………

問題になっていることに対して
どのように取り組めばよいか。

- 1 課題（問題点）を全て書き出す
- 2 取り組みやすい順にならべる
- 3 数個と期間を決めて取り組む

※本人が主体的に選択する

※関係諸機関と一緒に取り組む

ほめることでよいスパイラルに変えていく

できる→ほめられる→自信がつく→やる
→またほめられる→もっともっとやる
→どんどんできる→更にほめられる
→より高い目標に向かって取り組む

◆自己肯定感を高めていく

「ぼくは、計算は得意なんだ。」

「調理が好きでコックさんになりたい」

「勉強は苦手だけどやさしい子です」

叱ることも大切

ダメなことはダメ

社会で通用しないことは

子どものうちからしつけをする

◆スポーツの世界でもレッドカード

◆警察で言えば

・発達障がいに対して基本的に

減刑はありません

☆特別支援学校高等部を退学！

その理由は

叱る観点を事前に明確にしておく

叱ることは、裏を返すと「ほめること」

①殴るなどの暴力は絶対許しません

→お手伝いなど相手にやさしい行動

②「殺す」「うざい」などの暴言もNG

→あいさつやお礼など温かい言葉

③3回同じことを注意されたら厳しく

→言われる前に自分で考えて行動する

大人は子どもの手本と言います

親は学者・武者・易者・役者・芸者・医者であれ！

☆憧れをもたせる大人になる

- ・ ありがとうを進んで言える子どもたちの理由
- ・ 「母の日に花」「うるさい死ねババア」の差

☆時には、保護者の失敗談が効果的

保護者の人柄を子どもが信頼したときに
本当の親となる

今日のお話の内容 (子どもたちのためになるお土産を少しでも多くご紹介したい。)



- 1 はじめに（特別支援を取り巻く現状）
- 2 親として何を行うと子どもたちは伸びるのか
- 3 **学校や各種機関等との連携の在り方**
- 4 知らないと損する進路の情報
- 5 放課後等デイサービス等の有効性と選び方

知らなかったでは済まされない

学校をはじめ各種機関ではもっとよい
様々なサービスを受けることができる
しかし、向こうから教えてくれない！！

→よいサービスは保護者が請求する

なぜ、向こうから教えてくれないか

(※税金の控除も申告制ですね)

全員にそのサービスができないから

※公務員の最大の欠点の一つ！！

◎医者の意見書を使うとよい

知らなかったでは済まされない

☆文句を言う前に情報を知って
「かしこい親」になりましょう

※ 「個別の支援計画の作成」

保護者と相談のもと学校が中心になって作成。様々な機関も巻き込んで、有効な支援を書類の中に残していく。担当が変わっても残る。

今日のお話の内容

(子どもたちのためになるお土産を少しでも多くご紹介したい。)

- 1 はじめに（特別支援を取り巻く現状）
- 2 親として何を行うと子どもたちは伸びるのか
- 3 学校や各種機関等との連携の在り方
- 4 **知らないと損する進路の情報**
- 5 放課後等デイサービス等の有効性と選び方

進路選択で一番大切なこと

将来を見すえて今の学習を考える

《まずは、18歳以降どうするのか？》

1. 障害者手帳を使って障害者として生きる
2. 障害者手帳なしで健常者として生きる
- (3. 障害者手帳と学歴の両方をとって生きる)

《中3卒業後どうするのか？》

1. 特別支援学校高等部へ進学
(通常の特別支援学校 or 高等特別支援学校?)
2. 高等学校(高校)へ進学
(通常の高校 or 特別な高校?)

進路選択で一番大切なこと

目先の困り感や目標で進路を決めない

※学校や行政の都合もあることに注意！！

※特別な支援が必要な子どもの実態を最優先

○長期的（少なくとも3年後）を見越して決める

「通常のクラス」

「通級指導教室」 . . . ○中学校での進路

「特別支援学級」 . . . ○知的 ○自閉情緒

「特別支援学校」 . . . ○大学受験資格

その他にも

今日のお話の内容

(子どもたちのためになるお土産を少しでも多くご紹介したい。)

- 1 はじめに (特別支援を取り巻く現状)
- 2 親として何を行うと子どもたちは伸びるのか
- 3 学校や各種機関等との連携の在り方
- 4 知らないと損する進路の情報
- 5 放課後等デイサービス等の有効性と選び方

昔は、預かってもらえるだけで大満足

現在は

身近で、よりよいサービスを受ける時代

※単なる預かりから学校等と連携をとった療育へ

→有効な支援を共有し、子どもの支援に生かす

(個別の支援計画策定も)

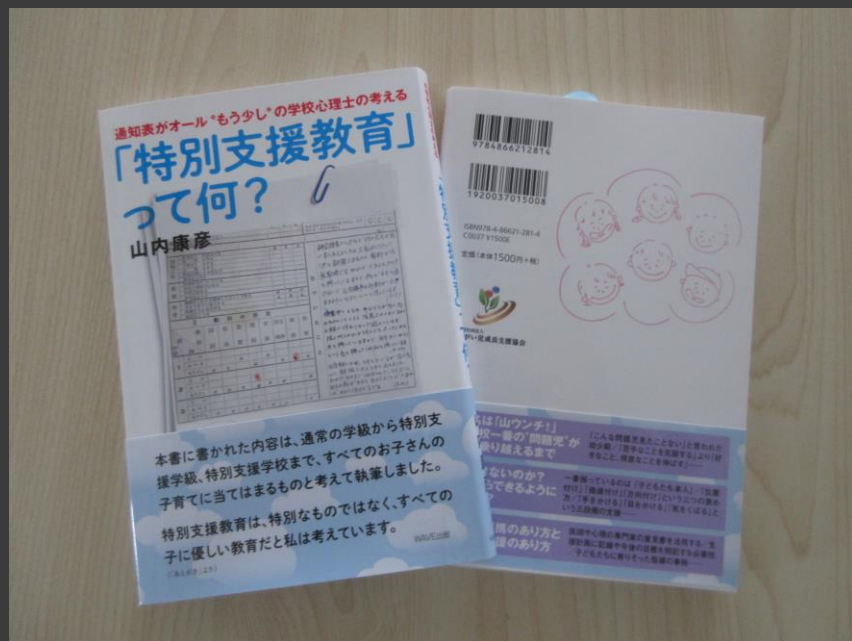
※子どもが力を身につける施設 (学力・社会性)

社会性を身につけ、就労まで見すえた長い支援

早期からの質の高い、継続した療育が有効

「児童発達支援」 → 「放課後等デイサービス」へ

困り感を共感的に受け止め、早期から適切な支援を継続的に行うことが大切です



**特別な支援は、もはや特別なものではありません
全ての子どもたちにとってやさしい支援なのです**

ご清聴ありがとうございました。